

平成 31 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 古里 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 31 年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 117人

② 数学 117人

③ 英語 117人

5 留意事項

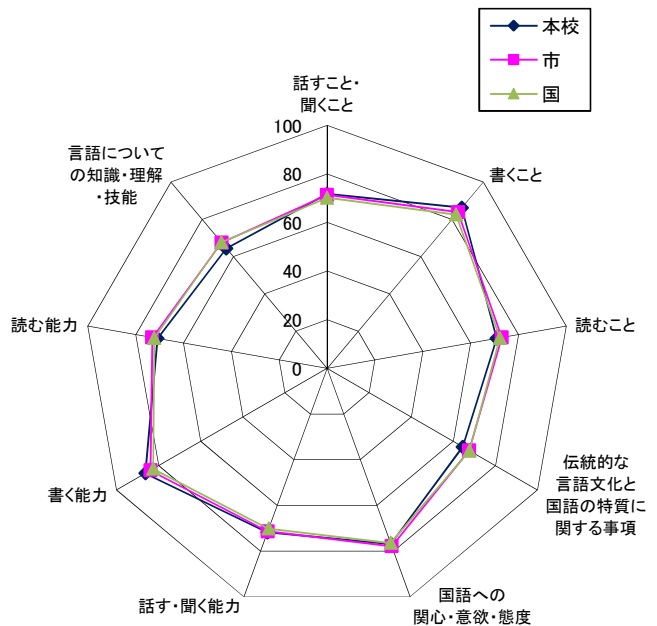
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立古里中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	71.8	71.4	70.2
	書くこと	86.3	83.9	82.6
	読むこと	70.9	73.0	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.5	67.5	67.7
観点	国語への関心・意欲・態度	76.9	77.9	76.5
	話す・聞く能力	71.8	71.4	70.2
	書く能力	86.3	83.9	82.6
	読む能力	70.9	73.0	72.2
	言語についての知識・理解・技能	64.5	67.5	67.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

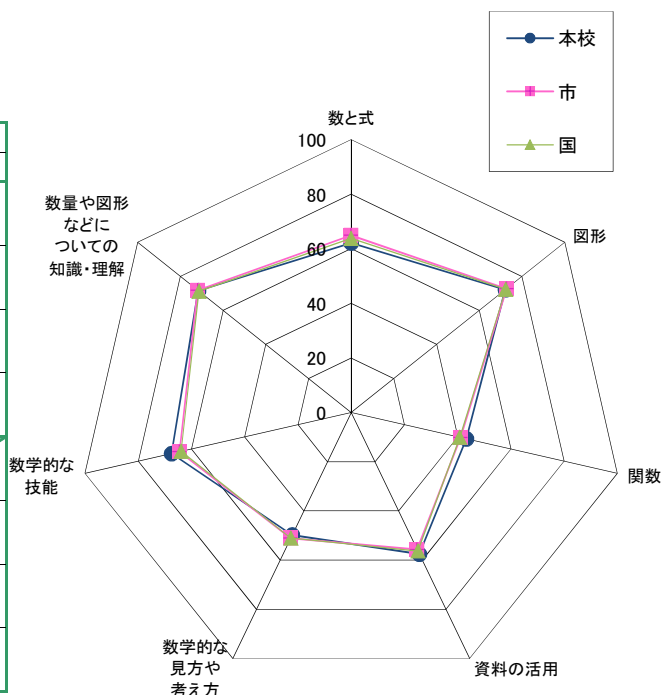
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○正解率は、市の平均を0.4P(ポイント)、国の平均を1.6P上回っている。 ○「話し合い」の中で、話題や方向を捉える設問では、市を2.3P・国を2.5P/相手に分かりやすく伝える表現について理解する設問では、市を1.3P・国を1.2P/話題や方向を捉えて自分の考えをもつ設問では、市を0.2P・国を1.1P、それぞれ上回っている。	・本校の課題の1つである「表現力の向上」について、改善がみられてきたので、今後も多様な形式での話し合い活動を積極的に取り組んでいく。 ・話す前に「書く」活動が、自分の考えをもつ能力を向上させていると考えられるので、今後もこの取り組みを継続していく。
書くこと	○正解率は、市の平均を2.4P、国の平均を3.7P上回っている。 ○趣旨：書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する設問では、市を4.8P・国を4.9P/伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く設問では、市を0.4P・国を2.5P、それぞれ上回っている。	・本校の課題の1つである「書く力」について、改善がみられてきたので、単元についての感想や意見、新出語句を用いた短作文など、今後も様々な機会に「書く」活動に取り組んでいく。 ・長期休業期間に、様々な領域の課題作文にじっくりと取り組めるように、作文指導をしっかりとしていくようにする。
読むこと	●正解率は、市の平均を2.1P、国の平均を1.3P下回っている。 ○文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える設問では、市を1.8P、国を0.9P上回っている。 ●文章の構成や展開・表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをもつ設問では、市を2.5P、国を2.4P/文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつ設問では、市を3.2P、国を2.3P、それぞれ下回っている。	・「小説」「説明文」など、様々な文章の内容理解ができるように、文種に合わせた読解法を身に付けることができるように、丁寧に指導していく。 ・「小説」「詩」などについては、登場人物の言動だけでなく、場面の情景描写、更に伏線となる描写などからも、登場人物の心情や作者の意図した主題などを読み取ることができるよう指導する。 ・「説明文」など、論理的な思考が必要とされる文章では、接続語・指示語・段落構成などから、筆者の論の進め方を理解していくことができるよう指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●正解率は、市の平均を3.0P、国の平均を3.2P下回っている。 ●封筒の書き方を理解して書く設問では、市を3.2P、国を3.0P/語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する設問では、市を2.0P、国を3.5P、それぞれ下回っている。	・古典だけでなく、他の伝統的な言語文化に関する知識をしっかりと身に付けるように指導していく。

宇都宮市立古里中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	62.1	64.9	63.8
	図形	72.2	72.8	72.4
	関数	43.3	41.1	40.8
	資料の活用	57.5	55.7	56.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	49.8	51.1	51.0
	数学的な技能	67.5	64.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	71.6	71.9	71.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

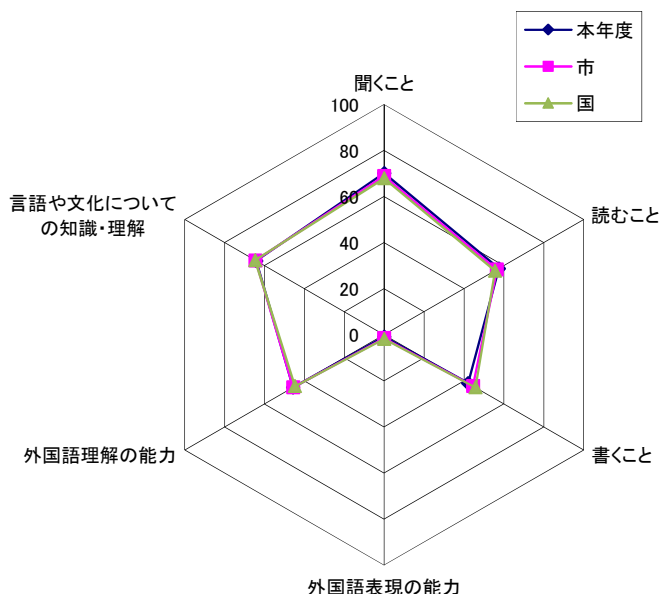
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ●市よりも正答率が2.8%、国より1.7%低い。 ●数の集合と四則計算の可能性についての問題は国よりも3.2%低い。 ●簡単な連立方程式を解く問題は国よりも2.6%低い。 ●与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的をとらえる問題では、市より3.8%、国より3.6%低い。 ●事柄が成り立つ理由を説明する問題では、市より4.3%、国より3.3%低い。 ○総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈する問題では市より3.6%、国より3.9%高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整数、自然数などの用語の意味の理解があいまいな生徒がいるので再度確認し定着させる。 ・学習プリントの準備やワークの活用により、計算問題の反復練習を続け、計算力を高めていく。また、問題文を読む際に、線を引いたり図に表したりして問題の内容を理解することで、等しい関係や大小関係を的確にとらえ、文字を使って表す練習を、補充学習として扱っていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●市よりも正答率が0.6%、国より0.2%低い。 ○平行移動の距離を求める問題は市より2.3%高い。 ●結論が成り立つための前提を考え、新たな事項を見いだし説明する問題では、市より3.8%、国より3.7%低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生では「相似な図形」、「円」について学習するが、その事前の学習として、1、2年の学習内容の理解が不十分なところを復習させる。その際、作図の方法や用語、定義、定理について再確認させて定着を図る。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ○市よりも正答率が2.2%、国より2.5%高い。 ○表から反比例の式を求める問題は、市より10.8%、国より12.6%高い。 ○冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフの解釈の問題は市より3.4%、国より3.1%高い。 ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題は市より5.1%、国より8.2%高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 関数に関する基本的な学習内容を、表、式、グラフと関連づけながら再確認させ、定着を図る。その際に、技能だけでなく、意味を正しく理解し活用できる力を身につけさせる。そのために関数の学習では、身の回りの事象を関数的にとらえる課題を扱うようにし、表、式、グラフを用いて考えることのよさを味わえるように取り組ませる。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○市よりも正答率が1.8%、国より1.2%高い。 ○簡単な確率を求める問題は市より3.1%、国より0.7%高い。 ○資料を整理した表から最頻値を読み取る問題では、市より3.8%、国より1.9%高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生で学習した内容を再確認し、資料を読み取り、活用する力を身につけさせていきたい。

宇都宮市立古里中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	聞くこと	70.2	68.9	67.9
	話すこと			
	読むこと	57.5	56.5	55.6
	書くこと	42.1	44.6	45.8
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力	0.9	1.5	1.8
	外国語理解の能力	45.7	45.6	44.7
	言語や文化についての知識・理解	64.2	64.5	64.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○市よりも正答率が1.3%、国より2.3%高い。</p> <p>○教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する問題の正答率は、国より6.3%高い。</p> <p>●天気予報を聞いて、ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する問題の正答率は、国より0.1%上回るに留まった。</p>	<p>・聞くことを「苦手」と答える生徒は多いものの、正答率は比較的高い。引き続きデジタル教科書やCDの音声を多く聞かせたり、教師の発話を聞かせる状況を保ちつつ、苦手意識を払しょくできるようなリスニング環境を工夫する。</p> <p>・聞き取った情報から実生活に生かせるリスニング力を鍛えるため、ALTとの対話テストなどを増やし、臨機応変に対応できる能力を養う。</p>
話すこと		
読むこと	<p>○市よりも正答率が1.0%、国より1.9%高い。</p> <p>○ある場所を説明する英文を読んで適語を補充する問題の正答率は、国より5.2%高い。</p> <p>●食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く問題の正答率は、国より4.9%も低かった。</p>	<p>・ある程度のヒントがあれば、適語を補うだけの力は備わっている生徒が多いので、引き続き指導を継続していく。</p> <p>・比較的長く意味のある英文を読んで理解する能力を養うため、日ごろからバリエーションのある内容のある程度の長さの英文を読む習慣をつけていこう、授業の中でも読み取りの時間を増やしていく。</p> <p>・普段から新聞やニュースなどの英文に慣れ親しむよう啓発する。</p>
書くこと	<p>●市よりも正答率が2.5%、国よりも3.7%下回っている。</p> <p>○文中の空所に入れる適切な接続詞を選択する問題の正答率は、国より7.3%も高かった。</p> <p>●与えられた情報に基づいてある人物を適当な英文で紹介する問題の正答率は、国より5%以上下回った。</p>	<p>・文脈を考えながら適語を補充する力は備わっている生徒が多いので、引き続きある程度の長さの英文を読む習慣をつけていく。</p> <p>・情報に基づいてある程度の長さの英文でまとめる力を養うため、日ごろから身近なことについて簡単に書く場面を設け、習慣づける。</p>

宇都宮市立古里中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている、起きている」や「家の人と学校での出来事について話をしますか。」の質問では県や国よりも肯定的回答率が高く、家庭では規則正しく落ち着いた生活ができている様子が伺える。
- 「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。」「学校の規則を守っている。」「人が困っているときは進んで助けている。」と回答した生徒の割合が県や国を上回っている。他者を思いやり、集団の一員として協力して行動しようとしている。
- 「家で自分で計画を立てて勉強している。」と答えた生徒の割合は65%で、国の50%や県の58%を大きく上回った。
- 読書が好きな生徒の数や、図書館を利用する頻度は、国や県を上回っている。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。」に対する肯定的回答率54%で、国の39%や県の47%を上回っている。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている。」や「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、努力すべきことを決めて取り組んでいる」の肯定的回答率は、国や県を大きく上回った。
- 「将来の夢や目標を持っていますか。」「学校に行くのは楽しいですか。」は、国の70%県の75%を下回り、66%であった。自分の良さについて気づくとともに、学級や学年の仲間にも良さを認められること、それらを将来の夢に生かそうという態度を育てていくことで学校生活へ満足感も向上させていきたい。

宇都宮市立古里中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的な「学びあい」を通じた確かな学力の育成と向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書いてまとめ、発表する活動 ・「学びあい」などにより、個々の考えを練り上げる活動 ・ICTを活用した授業による活動 	質問紙で、「自分の発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」生徒は61%で、国の56%、県の60%と比べてほぼ同程度でわずかに上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学習の定着状況は、どの教科にも県や国の平均を下回る領域や観点がある。知識・理解をめぐる問題や知識・理解をもとに読み取ったり、表現したり、考えを深めたりする問題において下回る傾向がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動、特に書くことを取り入れた授業の工夫と改善 ・個々の考えを練り上げて、互いに学びあう活動の工夫と改善 ・ICTを活用した授業による活動の工夫と改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、またテストにおいても記述の内容を増やす。どのように考えをまとめるか、どんな発表をするかについて、その都度、具体的に指示していく。 ・ICTを活用した授業を全職員で取り組み、知識・理解の定着を目指して取り組んでいく。